



国立病院理学療法協議会

九州部会会報誌 vol.22



平成 29 年度のスタートにあたって

国立病院理学療法士協議会九州部会
会長 梶原 秀明 (大分医療センター)

新緑が美しい、爽やかな季節となりました。平成 29 年度がスタートし、1 ヶ月ほどが経過しましたが、職場の方は落ち着いて来られましたでしょうか？

九州管内施設の理学療法部門のトピックスとしては、菊池病院に今年度より理学療法士が配置され、理学療法士の未配置施設は 1 施設のみとなりました。また西別府病院、別府医療センターでは運動療法主任の複数配置がなされました。職場体制の動向では、4 月 1 日より九州医療センターで ADL 維持向上等体制加算の運用が本格的に開始されました。現時点で全国の国立病院機構で初の運用となります。ADL 維持向上等体制加算は急性期病棟での廃用・褥瘡の予防的介入、安全管理、多職種協働、情報共有などマネジメント能力が求められる体制であり、今後の動向を注視させていただきながら、その運用状況を会員の皆様へお伝えしたいと思います。また小倉医療センターでは地域包括ケア病棟の運用が 2 月より開始されており、九州管内の国立病院機構施設で地域包括ケア病棟（病床）を運用する施設は 6 施設を数えることとなります。地域包括ケア病棟（病床）につきましては現在多くの施設で導入を検討されていることと思いますので、情報の共有が行える機会を設けたいと考えており、その際は積極的な情報交換を図っていただけたらと思います。

社会情勢に目を向けますと、増え続ける社会保障費に焦点を当てた改革として地域包括ケアの推進が叫ばれて久しく経ちますが、振り返ってみますと今から 50 年ほど前の昭和 40 年に理学療法士及び作業療法士法が施行され、日本の本格的なリハビリテーションが始まりました。その原点は「障がい者の社会復帰」でありましたが、近年の高齢化の波を受け、リハビリテーションの対象として「高齢者の在宅復帰」への需要が急激に拡大してきています。高齢者の「活動」、「参加」を取り入れたリハビリテーション医療の本質的役割を果たしていくことを考えると、まだまだ受け皿としてその拡大に量的にも質的にも追いついていないとは思えません。2025 年に向け病床機能分化や病床数の削減が進む中、それぞれの病院が二次医療圏の中で求められる役割を果たすことが強く求められることとなりますし、リハビリテーション科もそれに応じた対応をしていくために少し先を見据えたリハビリテーション科の構築が必要となります。協議会としても、非力ではございますが役を果たせばと思いますので、今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

第6回国立病院理学療法士協議会九州部会学会について

佐賀病院 山野 朋博

平成29年1月28日（土）に佐賀病院において部会学会を開催いたしました。佐賀病院の口石副理学療法士長に学会長をお願いし、テーマを「来るべき未来に向かって～toward the upcoming future～」のもと9演題の一般演題が発表され、フロアからの活発な質疑応答もあり大変盛り上がりしました。

また、特別講演に九州グループ医療担当参事の福泉公仁隆先生をお招きし、「来るべき未来に向かってリハビリテーション職に求められるもの～リハビリテーションと栄養管理は医療の質の向上に貢献する！～」の題で栄養管理の重要性に加え今後の日本の医療の方向性やチーム医療においてリハビリテーションに求める内容をわかりやすくご講義いただきました。ご講演後も学会最後までご臨席いただき演者へのご指導もいただき大変有意義な学会になったかと思われます。

今回の学会は初めて佐賀にて行い、土曜日勤務を行っている施設が多くなっている中、九州各地より総勢80名のご参加をいただき、誠にありがとうございました。



平成29年3月末をもちまして、宮崎東病院の中筋八千代氏が定年退官されました。今までを振り返っていただき、後輩セラピストへお言葉を頂きました。

PT完全燃焼活動を終えて

「リハビリテーションを考える～障害者の全人間的復権」（上田敏）。私はリハビリ専門職種として理学療法士を天職と思い楽しく過ごすことができました。

私の基礎を作ったのは、(旧)国立療養所 東京病院附属リハビリテーション学院時代。療生活だったので北海道から沖縄まで全国から集まった友人たちと、深夜までの実技試験や早朝からのPNF等の手技練習と切磋琢磨しました。そしてなにより、南九州病院での約20年。古き良き時代だったので自費ながら長期の国際レベル？(外国人講師)の講習会に3つも参加し正常運動発達学的及び神経発達学的アプローチに加え筋骨格系からのアプローチを学び理学療法士としての根幹を作ることができました。

そして、人間として理学療法士として成長させて下さったのは、我が子がハンディを持つかもしれないと早期発見・早期治療で出会った母親と子供たち。さらには転勤により異なる県、職場に勤務して出会った患者様たちの言葉です。「言の葉」に五感を研ぎ澄まし思考しセラピーを展開することでいろんなことを発見し学ぶことがたくさんありました。

零位に戻る。定年退職とはこれだと思っています。これからは理学療法士としての展開も考えていますが、社会の基礎を学び大きな意味のリハビリテーションへのチャレンジも考えています。

九州グループの各施設の皆様、今までありがとうございました。心より感謝申し上げます。これからの皆様のご活躍を期待しております。

特定技能派遣研修に参加して

南九州病院 松本 侑己

2月15日～17日の3日間、九州医療センターで開催された特定技能派遣研修VI(新人セラピストのためのリスク管理)に参加してきました。疾患ごとの急性期医療におけるリスク管理、情報収集における視点、画像や心電図、エコーの診方、呼吸のフィジカルアセスメントなど学びました。また、事例に基づいて研修生同士でディスカッションすることで今まで気づかなかった多くの診方を知ることができました。また、医療メディエータという職種の方からトラブル時の解決方法として患者さんと対話する重大切さを学びました。この研修で学んだことを意識して業務に励みたいと思います。研修会に参加することで知識を学ぶだけでなく、他の人の意見を聞くことが出来て参考になりました。今後も多くの研修に参加し自己研鑽していきたいです。九州医療センターの先生方、お忙しい中研修の準備から開催まで誠に有り難う御座いました。

施設紹介

東燈、ふたたび

福岡東医療センター 理学療法士長 田中正則

昭和60年に回廊型鉄筋コンクリート建て療養所の脳卒中デイケア棟として開設された理学療法・作業療法・言語療法の3部門を有する統括診療部リハビリテーション科は、平成28年5月6日に外来管理診療棟2階の502㎡という広いスペースに移転しました。



設計のコンセプトには『ハイブリッド・リハビリテーション』を掲げ、具体的には「医療と介護の架け橋」、「PT・OT・STの各療法の連携」、「治療から治療を支える生活の継続」を目指して、移設作業を進めて参りました。

正面奥に可変式バス・トイレ・キッチンユニットを設置して、リハビリテーション対象者の生活を在宅と同じ環境を病院内で再現し、セラピストが感じ考えることで切実な生活障害を分析し、予後予測する仮説モデルを検証しながら、新たな生活デザインを創出できるようになりました。

現在スタッフは、リハビリテーション科医長1名（脳神経内科兼任）、理学療法士10名、作業療法士7名、言語聴覚士4名、事務助手2名の計24名となり、各療法の士長が配属された充実した管理体制を敷いております。

また平成28年の診療報酬改訂を受けて、一般急性期病院としての地域での生き残りをかけて患者の早期の機能回復の推進に取り組んでおります。過去3年間平均在院日数は12日と変動ありませんが、全療法に占める初期加算率は平成26年度38.2%、平成27年度38.0%、平成28年度48.7%、同様に早期加算率は平成26年度63.4%、平成27年度62.7%、平成28年度75.7%と診療全体が早期医療に移行し、より高いリスク管理と診療スキルを全診療科から求められ、スタッフ一丸となって研鑽致しております。

平成 28 年度新採用者紹介

たくさんの自己紹介をしていただきました。

新しく入職していただいた先生方のことを少しでも知る機会になればと思います。

- ① 指名②出身地③趣味・特技④抱負⑤1年働いた感想

九州医療センター

- ① 速水 慶太 (はやみ けいた)
- ② 福岡県糟屋郡篠栗町
- ③ 音楽鑑賞・ライブに参戦
- ④ 知識・技術の向上に向けて自己研鑽を続け、患者そして病院の中でも信頼されるセラピストになることが現在の第一目標です。そして病院内だけでなく地域社会にも目を向け、広い視野を持って一人ひとりと寄り添っていきたくと考えています。
- ⑤ 日々患者さんの状態が変化する急性期病院において、最適なプログラムの立案とリスク管理を含めて難しさとやりがいを感じています。まだまだ日々の業務に精一杯ですが、先輩方のアドバイスを受けながら勉強することができ、充実した毎日を過ごしています。

長崎病院

- ① 原口玲未 (はらぐちれみ)
- ② 長崎県長崎市
- ③ サッカー経験があり、リフティングと PS4 のウイニングイレブンが得意です。最近始めたスノーボードを趣味にしたいです。
- ④ まずはホスピタリティをしっかりとし、いつでも患者さんに寄り添い、一人一人向き合っていけるような理学療法士になりたいです！
- ⑤ 術後から慢性期、疾患も様々で多くのことを体験させて頂いています。まだまだ未熟ですが、尊敬する先輩達に支えられながら頑張っています。

鹿児島医療センター

- ① 重野天政 (しげの てんせい)
- ② 福岡県
- ③ 旅行
- ④ 病気をしないために食生活を改める
- ⑤ 病態や治療等に関する知識不足

長崎医療センター

- ① 氏名 林 達矢 (はやし たつや)
- ② 熊本県
- ③ サッカー 釣り
- ④ この人によかったと思えるリハを
- ⑤ 働き始めてからの感想 責任のある仕事だとあらためて感じている毎日です。日々ご指導を頂き、毎日成長できていると思います。反省することの多い1年でしたが、とても良い環境で仕事でき、とてもうれしく思っています。

熊本再春荘病院

- ① 渡邊絵理子 (わたなべ えりこ)
- ② 熊本県
- ③ 旅行
- ④ 関わる全ての方に、笑顔になって頂けるよう努力します
- ⑤ 新社会人として入職した直後に熊本地震で被災し、慌ただしいスタートをきった4月から、早1年が経とうとしています。患者様や同病院スタッフはじめ、多くの方々に支えられて日々業務に励むことができています。様々な疾患の患者様を担当させて頂けることや、多くの経験を積ませて頂けることに感謝しながら、微力ながら貢献できるよう頑張ります。

西別府病院

- ① 稲葉 壘希 (いなば るいき)
- ② 熊本県
- ③ ジムで体を動かすこと 温泉
- ④ 当院の強みである神経・筋疾患、重症心身疾患について重点的に学び、患者様のQOL向上に貢献できるよう自分自身のスキルアップに努めたいと思います。
- ⑤ 入職して2週間で発生した熊本地震で私の出身地である熊本が甚大な被害を受けたこと、初任地である西別府病院も被害を受けたことで当初は精神的にきついこともありましたが先輩方のサポートもあり乗り越えることができました。業務面では、他職種で連携を図ることの難しさや慣れない書類作成、神経筋疾患・重症心身疾患の患者様に対してのリハビリなど初めて経験することばかりで戸惑うことも多くありました。特に、神経筋疾患・重症心身疾患の患者様のリハビリでは呼吸機能面での介入や車椅子の作成、ポジショニング検討など試行錯誤の日々ですが、先輩方の意見や日々の勉強を大事にしながら自己研鑽に励みたいと思います。また、今後は患者様のQOL向上のためPTとして介入できることがあれば自ら積極的に行動していきたいと思っています。

佐賀病院

- ① 植村 大夢（うへむら ひろむ）
- ② 福岡県 大牟田市
- ③ スノーボード
- ④ 報恩謝徳の精神で日々精進
- ⑤ 働き始めて一番に感じたことはお金を貯めることの大変さです。一人で生活し、食事など全てを自分で行うことで親の大変さや苦労が少しわかった気がします。職業上の感想は、自分の未熟さを痛感しました。患者様に対する評価の少なさ、評価をつなげる知識のなさ、コミュニケーション能力の低さ等多くの事を痛感し悩むこともありました。しかし、患者様の笑顔や「ありがとう。」という言葉に励まされ、職場の上司・先輩からの助言を頂き成長できたと思います。

※敬称略、順不同をご了承ください。ここに数式を入力します。

ホームページのご案内

随時更新中です。ぜひホームページをご覧ください。

国立病院理学療法士協議会九州部会ホームページ

<http://pt-kyushubukai.jimdo.com>

編集後記

日中は汗ばむほどの陽気となり、夏の近いことを実感する季節になりましたが、毎日お元気でご活躍のことと存じます。会報誌第22号を発行するにあたり、12名のスタッフの方々にご執筆いただき完成する事ができました。ご多忙中にもかかわらず早く原稿執筆を引き受けていただきまして本当にありがとうございました。

今後も年2回の会報誌作成をしていく予定です。皆さまからの投稿をお待ちしております。またご意見・ご要望等をお寄せいただけましたら幸いです。

広報局国立病院機構鹿児島医療センターリハビリテーション科黒岩剛成

E-mail : kuroiwa27@kagomc2.hosp.go.jp